

令和3年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	持続可能な事業運営に向けた中長期の経営計画の策定		
予算額	— 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	企画総務部 財務課(863-5087)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>市バス・地下鉄事業は、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）の影響により、令和2年2月以降、お客様数が大幅に減少し、危機的な経営状況が続いている。</p> <p>令和3年度においては、大規模な投資を伴う「地下鉄烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置に向けた車両改造」や「市バスの均一運賃区間全系統への前乗り後降り方式拡大」の延期等、コスト削減及び事業見直しを実施し、緊縮予算を編成するものの、コロナの影響により運賃収入が大きく減少し、経常損益は市バス事業で▲56億円、地下鉄事業で▲58億円もの大幅な赤字予算となっている。</p> <p>今後もお客様数の回復は見通すことができないことに加え、テレワークやオンライン授業の浸透等により、これまでのような御利用は当面期待することができず、かつてない危機的な経営状況にある中、将来にわたり「市民の足」としての役割をしっかりと果たせるよう、中長期の経営計画を策定する必要がある。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>平成31年3月に策定した「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」に掲げた交通局の役割や安全第一の事業運営など「経営の基本方針」は堅持したうえで、「財政計画」の見直しをベースに、持続可能な事業運営に向けて、今後のお客様数の回復状況や国の動向をしっかりと見極めつつ、更なる事業の見直しや経費の削減を行う施策を盛り込んだ中長期の経営計画を令和3年度中に策定する。</p> <p>なお、地下鉄事業は、令和2年度決算で財政健全化法に基づく経営健全化団体となる可能性が高く、議会の議決を経て経営健全化計画を策定する予定である。</p>			
<p>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</p>			

令和3年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	ICカードによるポイントサービス導入への着手										
予算額	債務負担	新規・充実・継続の別	新規								
担当課	営業推進室 運賃制度担当(863-5061)										
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>平成31年3月に策定した「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」において、市バスの一人当たり乗車運賃が他都市と比べて低いことに加え、御利用頻度に関わらず全国10種類ICカードで乗継割引を適用していることや磁気カードの市場が縮小していること、混雑対策として「移動経路の分散化」が必要であることなどの課題に対応するため、各種割引乗車券等の見直しを進めることとしていた。</p> <p>この間、以下の基本方針に基づき検討を重ね、令和2年12月に現在の経営状況も踏まえ、各種割引乗車券等からICカードを軸としたポイントサービスへと割引制度の転換を図る具体案を策定した。</p> <p>(1) 市民を中心とした利用頻度の高い方を優遇する制度への転換 (2) 「移動経路の分散化」を図るための割引制度への転換 (3) ICカードの利用促進を図るための割引適用のICカードへの集約</p>											
<p>[事業概要]</p> <p>既存の各種割引乗車券を廃止し、新たに、市民の方が多く利用されているICカード「ICOCA」及び「PiTaPa」限定で、市バス、京都バス又は地下鉄の御利用を対象として、条件を満たした方にポイントを還元する登録型のポイントサービスを導入する。</p> <p>1 ポイントサービスの概要</p> <p>(1) 乗継ポイント（月額3,600円以上の利用者の乗継に対するポイント還元）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス⇄バス 150円分/回のポイント還元（将来的には230円に引き上げ、実質バス・バス無料乗継の実現を目指す。） ・バス⇄地下鉄 120円分/回のポイント還元 <p>(2) 利用額ポイント（一箇月間の御利用金額に応じたポイント還元）</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>一箇月の御利用金額</th> <th>ポイント還元率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,000円以上5,000円未満</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>5,000円以上8,000円未満</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>8,000円以上</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) バスIC24時間チケット</p> <p>事前に登録した日の御利用金額のうち、設定額（700円）を超過した利用分のポイント還元により、実質的にバス一日券と同等のサービスを提供。また、24時間制とすることで既存のバス一日券よりも利便性を向上。</p> <p>2 スケジュール（予定）</p> <p>令和3年度～4年度 ポイントシステムの構築、機器改修 令和5年度 サービス開始</p> <p>3 総事業費（予定）</p> <p>約5.8億円</p>				一箇月の御利用金額	ポイント還元率	3,000円以上5,000円未満	1%	5,000円以上8,000円未満	2%	8,000円以上	3%
一箇月の御利用金額	ポイント還元率										
3,000円以上5,000円未満	1%										
5,000円以上8,000円未満	2%										
8,000円以上	3%										
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]											

令和3年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	北大路駅への可動式ホーム柵の設置		
予算額	41,754 千円	新規・充実・継続の別	継続
担当課	高速鉄道部 技術監理課(863-5216)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都市では、地下鉄を御利用のお客様に安心して御乗車いただくため、烏丸線全駅への可動式ホーム柵の設置に向けて取り組んでおり、令和4年度中に北大路駅へ先行設置するとともに、残る11駅についても、令和10年度までに設置する具体的な計画を令和2年3月に策定した。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、地下鉄事業はかつてない危機的な経営状況にあり、令和2年度決算で経営健全化団体となる可能性が高い状況にある。</p> <p>こうした中、可動式ホーム柵の全駅設置の方針に変更はないが、約110億円もの巨額の事業費を要することや、一般会計からの出資等を前提とする事業であることから、令和3年度に予定していた全駅設置に向けた車両改造を延期することとした。</p> <p>一方で、北大路駅への先行設置については、運行管理システムの更新に合わせて運行に工夫を凝らすことで、京都駅をはじめとした既設駅と同様、車両改造を伴わない従来方式で実施できることや、視覚に障害のある方が多く利用されるということも踏まえ、予定どおり、令和4年度中の供用開始に向け取り組むこととしている。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>北大路駅における令和4年度中の可動式ホーム柵の供用開始に向け、<u>令和3年度は設計を完了するとともに、柵本体の製作を開始する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> スケジュール (予定) <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 設計 令和3年度 設計, 工事契約, 柵本体の製作 令和4年度 柵本体の製作, 設置工事 総事業費 (予定) <ul style="list-style-type: none"> 約3.9億円 			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			